

---

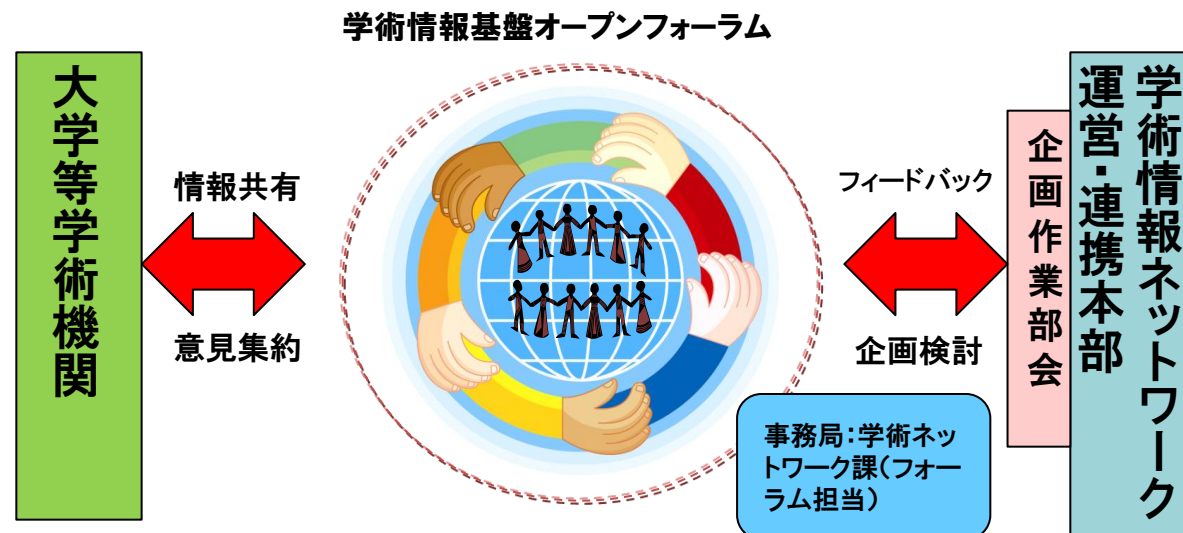
# オープンフォーラムと企画作業部会 について

平成22年11月10日

学術情報基盤オープンフォーラム2010

# 学術情報基盤オープンフォーラムと企画作業部会

- ◆ 平成21年6月に、今後の学術情報基盤の強化に向けた大学等との連携協力のための枠組みとして、学術情報基盤オープンフォーラムを発足。
- ◆ 国立情報学研究所では、この学術情報基盤オープンフォーラムの企画・運営のため、所内外の委員から構成される学術情報ネットワーク運営・連携本部の下に企画作業部会を設置。
- ◆ 企画作業部会では、アクセス回線高速化に向けた共同調達の実施や、上位レイヤを含めた今後の学術情報基盤の強化に向けたオープンフォーラムの活動の企画立案と運営。



# 学術情報基盤オープンフォーラムの活動

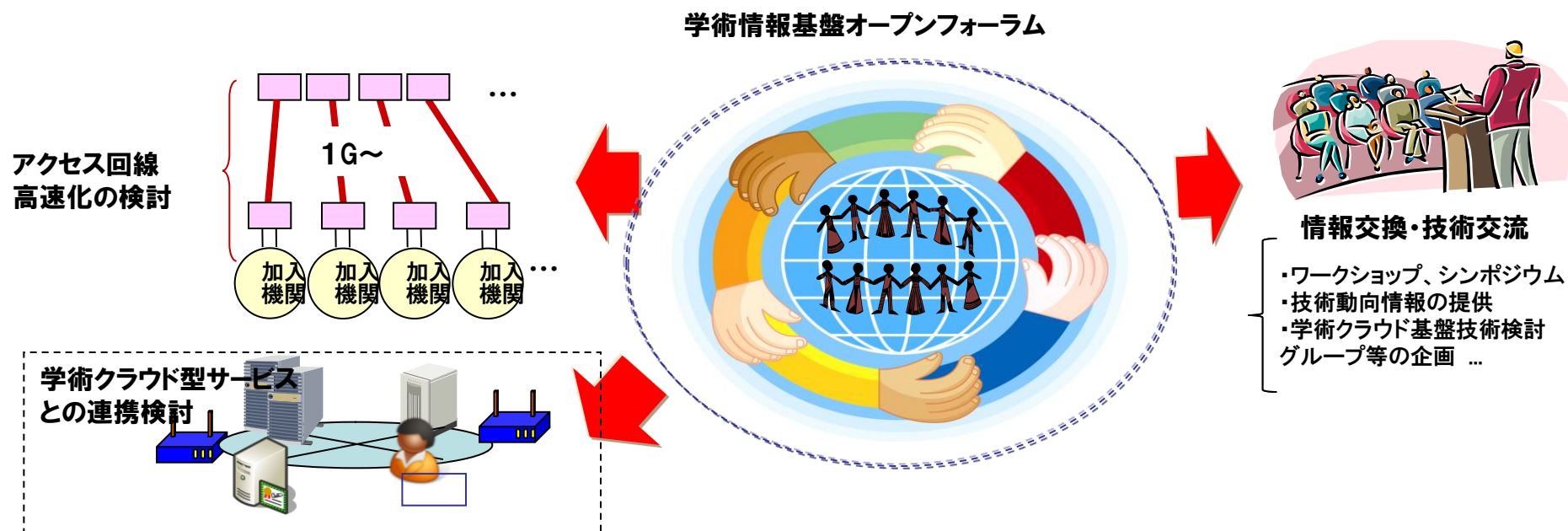
## ◆ 当面の活動(例)

### ➤ 学術情報基盤に関する情報交換・技術交流

- ・ ワークショップ、シンポジウム、説明会等の開催
- ・ 技術動向情報の提供
- ・ 学術クラウド基盤技術検討グループ等の意見、提案、企画参画。動向情報の先取り

### ➤ アクセス回線高速化に向けた検討

## ◆ 今後大学等との連携のなかで、新たな活動も！



# 企画作業部会メンバー

氏名	所属・職名
高井 昌彰	北海道大学 情報基盤センター 教授
曾根 秀昭	東北大学 サイバーサイエンスセンター 教授
松岡 聡	東京工業大学 学術国際情報センター 教授
辻澤 隆彦	東京農工大学 総合情報メディアセンター 教授
長谷川 孝博	静岡大学 情報基盤センター 准教授
岡部 寿男	京都大学 学術情報メディアセンター 教授
相原 玲二	広島大学 情報メディア教育研究センター長
青柳 睦	九州大学 情報基盤研究開発センター長
佐々木 節	高エネルギー加速器研究機構 計算科学センター 教授
安達 淳 (主査)	国立情報学研究所 学術基盤推進部 部長
阿部 俊二 (副主査)	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 准教授
山田 茂樹	国立情報学研究所 学術ネットワーク研究開発センター長
漆谷 重雄	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 教授

# 企画作業部会でのこれまでの活動状況

平成21年11月より5回開催し、以下の活動の推進をした。

- ◆ SINET4用アクセス回線の共同調達方法の立案と実施
- ◆ 最先端学術情報基盤の推進のための連携強化、及び上位レイヤサービスの議論
  - 学術コミュニティにおける連携の実態に関するヒヤリングによる把握
  - 上位レイヤサービスなどに関するアンケート※によるユーザニーズの把握
  - クラウドサービスを導入している大学へのヒヤリングによる上位レイヤサービス実態の把握
  - 商用クラウドサービス(クラウドメールなど)のヒヤリングによる実態調査
- ◆ さらに議論を深めるための3つの検討グループを発足
  - コミュニティ連携・人材育成G
  - 最先端サービスG
  - 認証基盤G
- ◆ オープンフォーラム開催の企画など

※アンケート(H22.5.13～H22.5.21実施 137機関より回答)

<http://www.nii.ac.jp/top/openforum/member/>

# アクセス回線共同調達について

# アクセス回線共同調達の目的と方法

---

## 目的

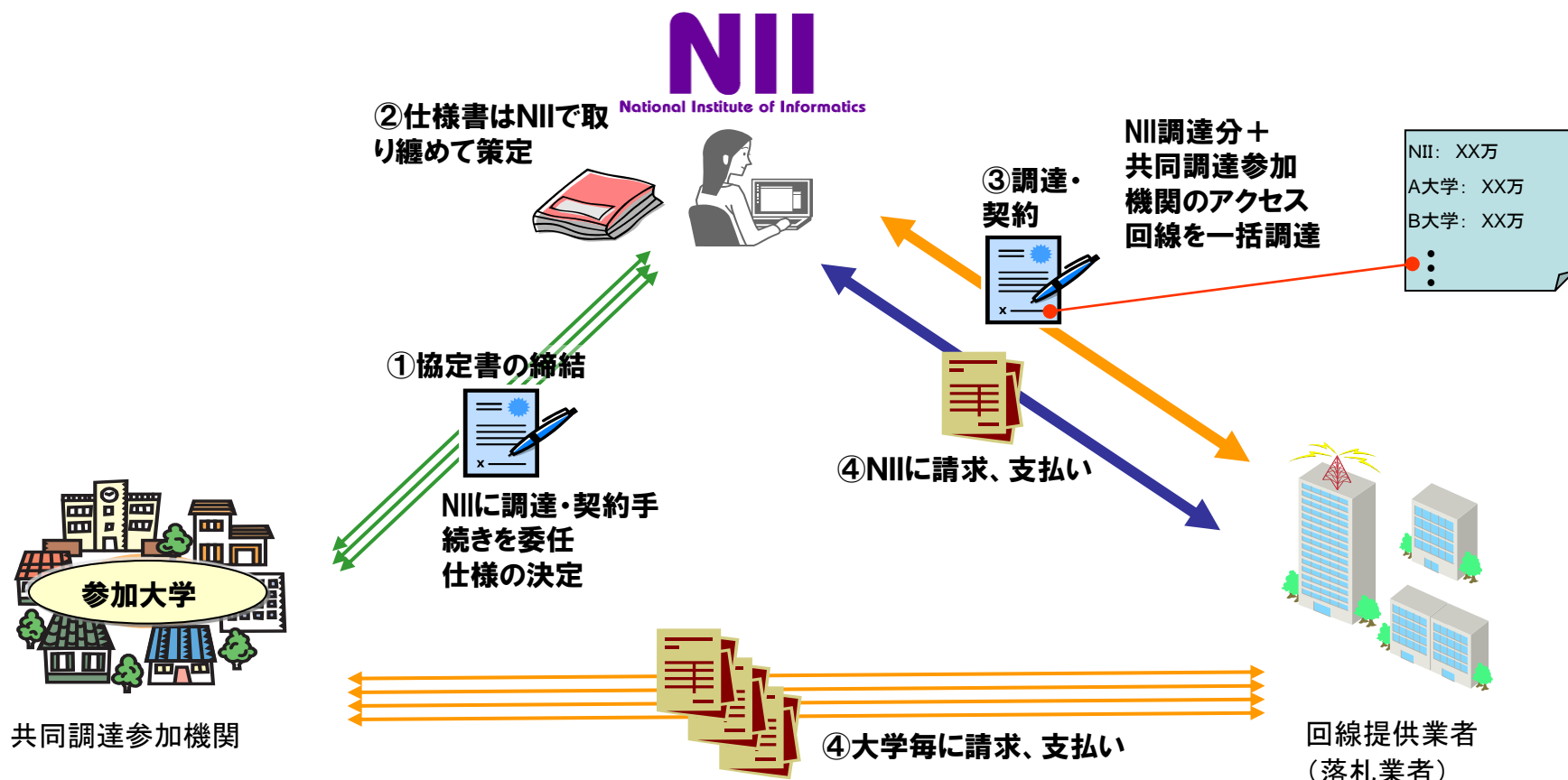
大学等(特に非ノード校)のアクセス回線について、**ダークファイバー**を用いることで、各大学が個別で契約している**100Mbps回線程度の経費で1Gbps以上の速度を実現**することを目的とする。

## 方法

現在、各大学が個別に業者と交渉・契約しているところを、我が国の大学等の教育・研究機関全体で**足並みを揃える**ことで、**アカデミックかつボリュームディスカウント**を引き出す。

# アクセス回線の共同調達方式

- ◆ NIIの調達に合わせて、アクセス回線の共同調達を行う。
- ◆ 調達・契約はNIIが代表して行なうが、支払い(請求)は個別に行う。そのため、NIIと大学の間で協定書を締結する。





# アクセス回線共同調達参加機関数

- ◆第1回アクセス回線共同調達説明会参加：  
(H22/2/17開催) 115機関
- ◆アクセス回線共同調達参加機関数： 20機関  
(24回線)

※第2回共同調達を検討中。(H23年度予算次第では中止の場合もあり)

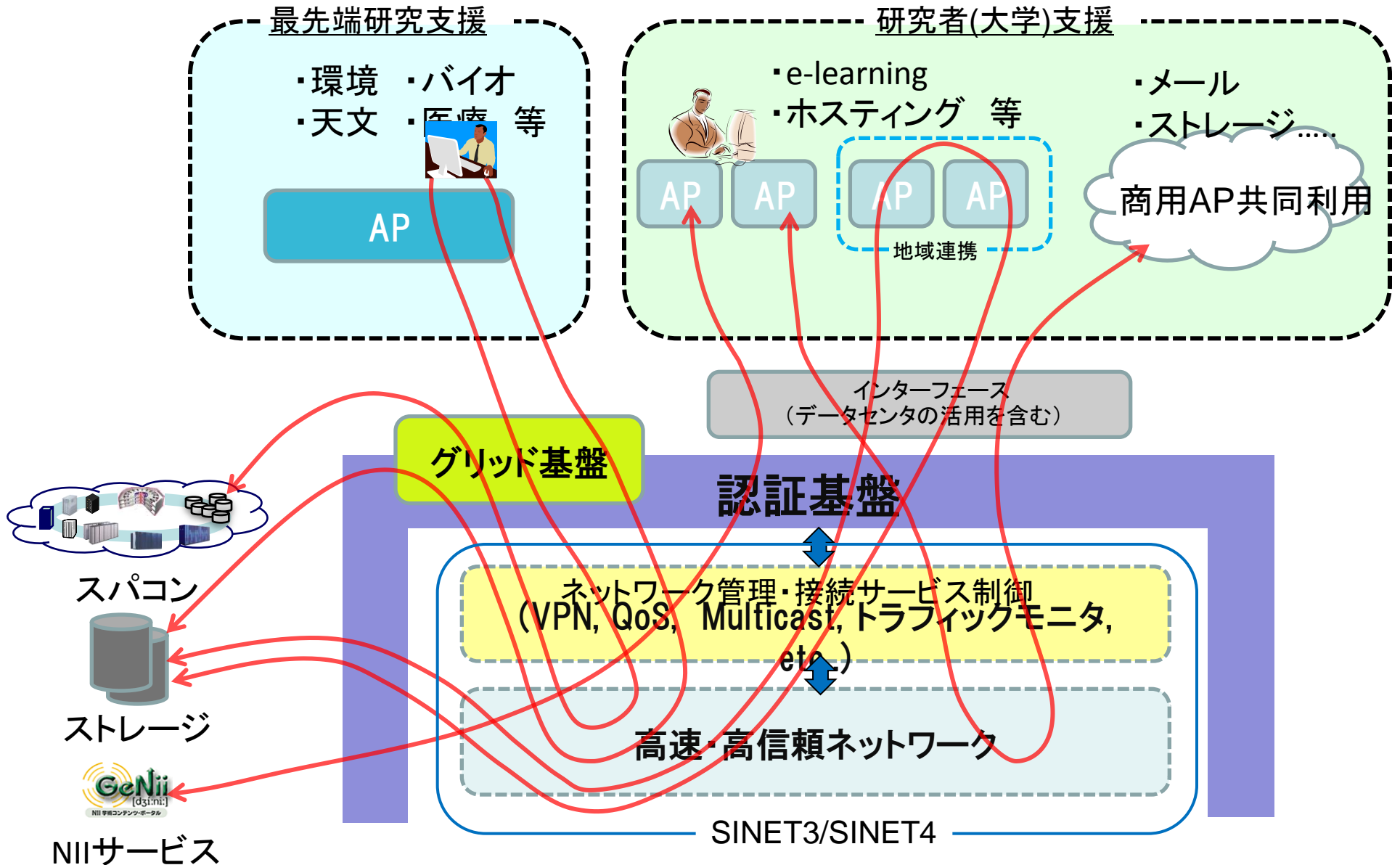
※個別に、ダークファイバー+WDM等で調達される場合の仕様書(案)も以下のURLで紹介。

<http://www.sinet.ad.jp/sinet4/access>

---

# 上位レイヤサービスイメージと各検討グループ概要

# 学術ネットワークにおける上位レイヤサービスイメージ



# 各検討グループの検討課題

## ◆コミュニティ連携・人材育成グループ

- 研究者(大学)支援の部分の検討を担当
- コミュニティ間の連携やクラウドサービス利用による効率化の促進と、効率化に伴う人材不足を補うための人材教育・育成を促進するための活動等の検討

## ◆最先端サービスグループ

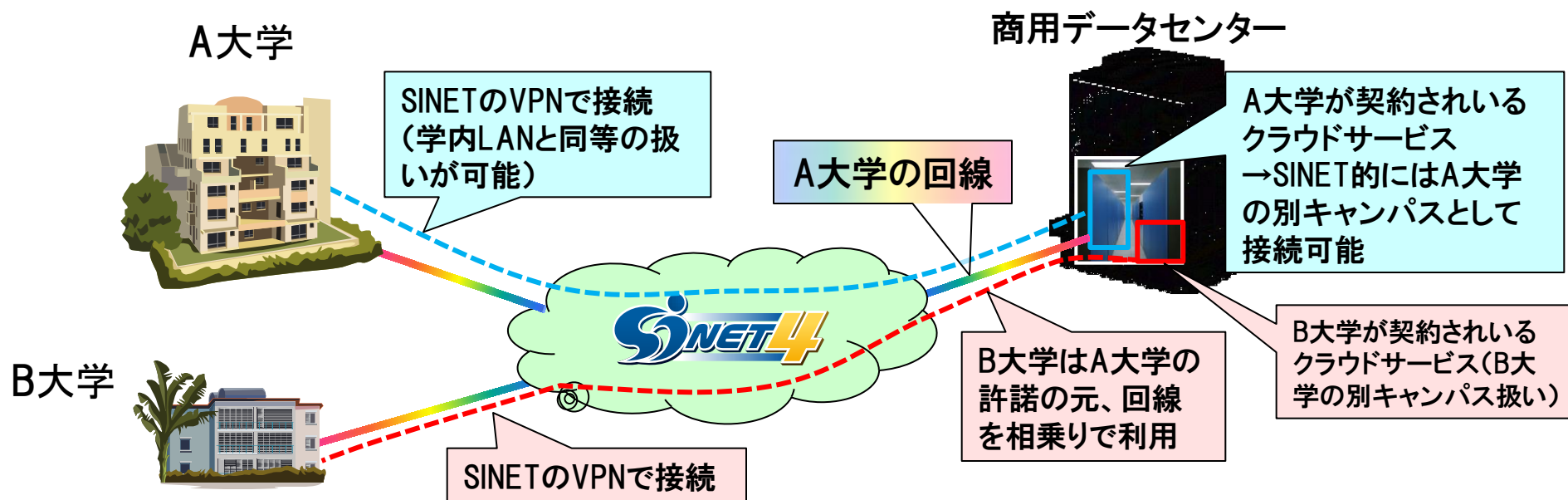
- 最先端研究支援の部分の検討を担当
- e-Science研究促進や次世代HPC利用などの観点からのユーザサービスや支援等の検討

## ◆認証基盤グループ

- 認証基盤の部分の検討を担当
- 研究者(大学)支援や最先端研究支援等のサービスとの連携と認証基盤普及のための活動等の検討

# 大学等支援のためのプライベートクラウドサービスとの接続について

- ◆ 商用のプライベートクラウドサービスと大学とをSINETで直接結ぶことは可能です
- ◆ ただし、商用クラウドサービスは民間企業ですので、以下の制約があります
  - 大学様の契約されたクラウドサービスと、大学とのVPN接続とさせていただきます
  - 商用クラウドサービスのデータセンターからSINETまでの回線は大学様でご用意願います
- ◆ SINETとしては、サテライトキャンパスが商用クラウドサービスのデータセンターにある形として取り扱いさせていただきます
- ◆ 複数の大学での回線の相乗りも可能ですが、回線の代表者(責任者)をお決めください



# 学術情報基盤に関するアンケート結果報告

# アンケート実施について

- ◆ 学術情報基盤オープンフォーラム参加242機関へのアンケートを2010年5月13日から5月21日までの9日間に実施した。
- ◆ 目的は、各機関の各種情報基盤サービスに関する、現場と課題の調査の為
- ◆ アンケートへの回答数は137機関であった。(回答率55%)  
〈国立大58校、私立大45校、高専9校、公立大7校、共同利用機関5機関、その他13機〉
- ◆ アンケートの内容
  - メールサービスについて
  - オンラインストレージについて
  - 情報システム担当者育成について
  - 学術認証フェデレーションについて

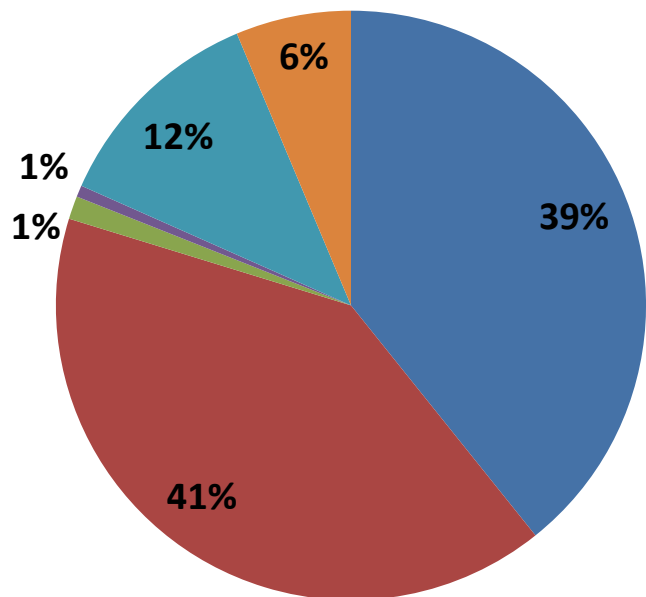
<http://www.nii.ac.jp/top/openforum/member/>

閲覧には、学術基盤オープンフォーラムの参加が必要です。

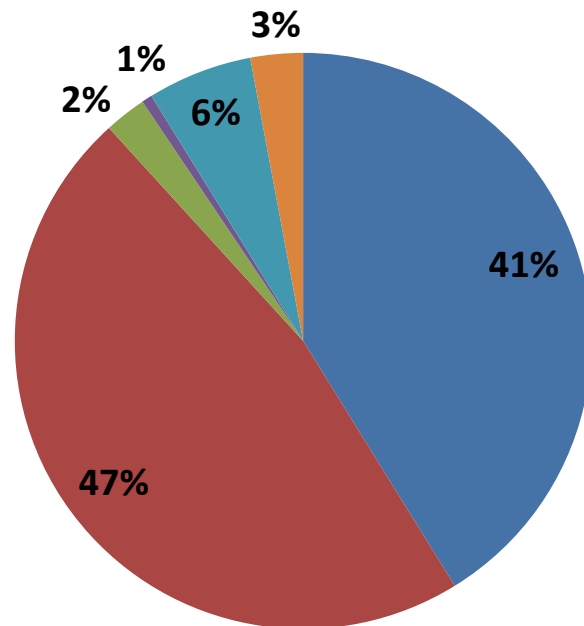
# メールサービスについて(1)

- ◆メールサービスは、自前管理運用が大多数(全体の約8~9割)。
- ◆無償ポータル系メールサービスの利用は学生が多い(教員の2倍)。

## ご利用のメールサービス形態について



学生用



教職員用

■ 有償パッケージ  
■ 有償クラウドサービス

■ オープンソースシステム  
■ 無償ポータルサイト系

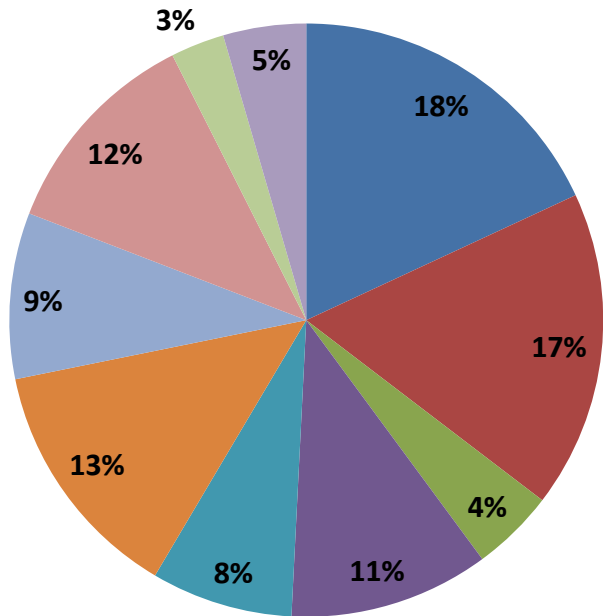
■ ホスティングサービス  
■ その他



# メールサービスについて(2)

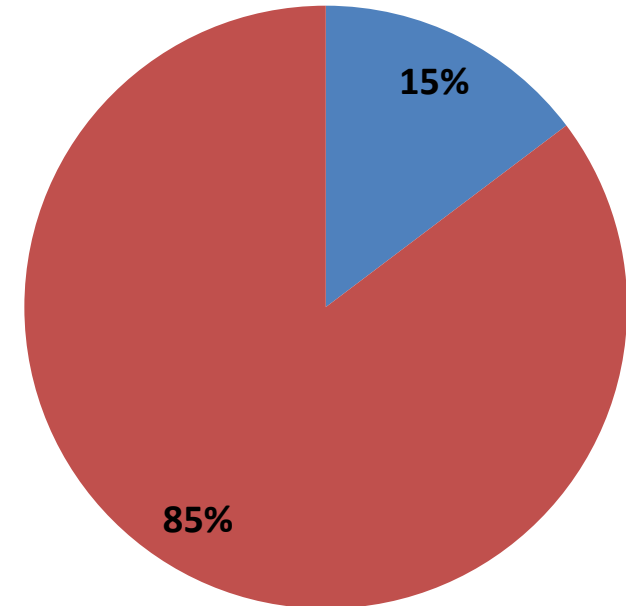
- ◆課題の上位は、ID管理や運用面である(合わせて3割強)。
- ◆メールサービスをアウトソースしている機関は、まだそれほど多くない(全体の15%)。

メールについて課題はありますか



- ID管理
- 運用面(問合せ/トラブル対応)
- セキュリティの確保
- 信頼性の問題
- システムが複数存在し、ポリシー統一の不備
- 費用の問題
- 機能の不足
- 特にない
- 可用性の問題
- その他

メールシステムのアウトソースサービスを利用していますか

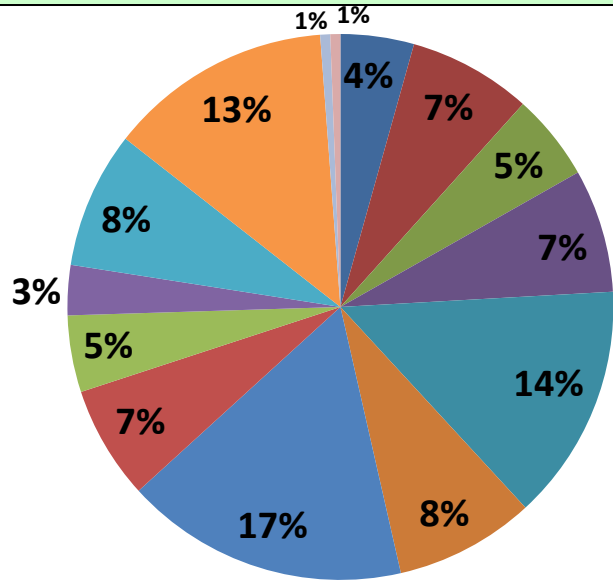


- はい
- いいえ

# メールサービスについて(3)

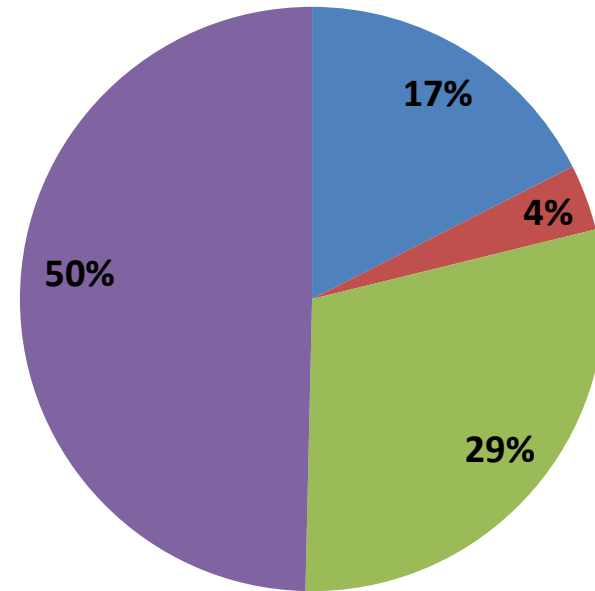
- ◆クラウド型メールサービスに対する懸念は、情報漏洩がトップ。
- ◆利用に対して前向き(利用中～検討している)と考えていないが半々。

クラウド型メールサービスに対して懸念することは



- メール長期保存の心配
- 情報漏洩のリスク
- コンプライアンス・内部統制上の問題
- 個人情報保護、輸出規制などへの対応
- メールボックス容量が不十分
- 広告表示
- 障害の頻度
- カスタマイズ上の制限
- 障害発生時の対応の質
- サービスの安定性
- サービスの継続性
- リアルタイムなサポートの心配
- 特にない

ポータルサイト系無料メールサービスの利用検討について

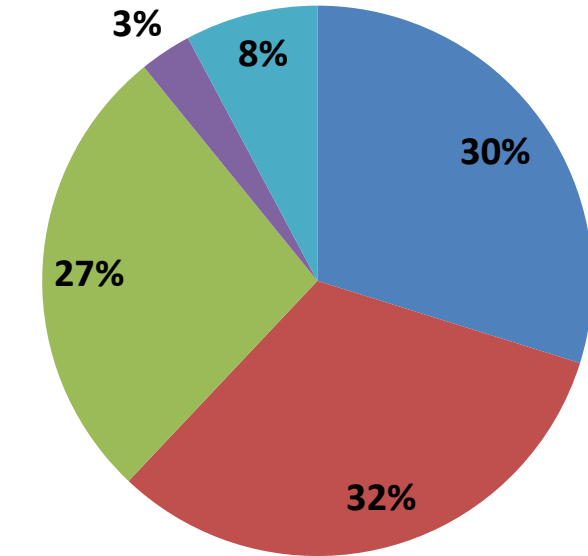


- 既に利用している
- 近い将来利用予定
- 導入は未定だが、検討中
- 利用は考えていない

# 情報システム担当者育成について

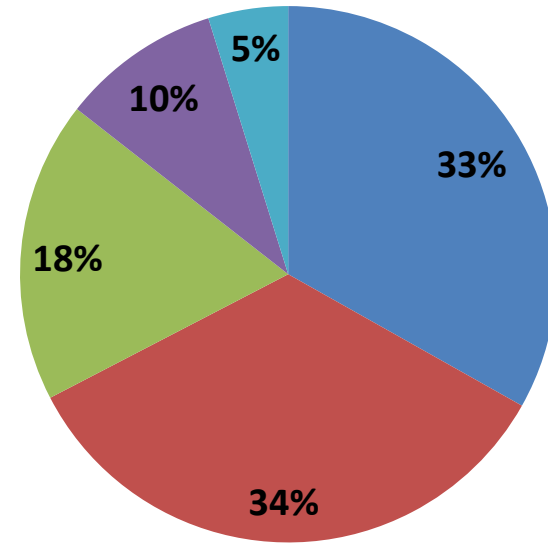
- ◆ 情報システム担当者育成の課題としては、人事面が約6割、研修制度が約3割。
- ◆ 採り入れたい育成方法としては、他機関との合同・連携が約7割。

情報システム担当者の育成の課題について  
(複数選択可)



- スキル・実績の評価基準が不明確
- キャリアパスが未設定
- 研修制度が不十分
- 特に困っていることはない
- その他

他機関の連携による、情報システム担当者の育成で取り入れたい方法について



- 他機関と合同の研修講座を開く(講師は機関内でアサイン)
- 他機関から講師を招く、また他機関へ派遣も行う交流
- 教材のみ他機関と共有する
- 機関間の連携には関心が無い
- その他

# 今後の活動計画(案)

- ◆ H23年1月頃:  
大学におけるクラウド導入事例をベースにした取り組みの紹介  
クラウド導入を検討するにあたってヒントとなる「事例紹介」など
- ◆ H23年2月頃:  
第2回共同調達説明会  
(予算等の事情により開催されない場合もあります)
- ◆ H 23年6月頃:  
学術情報基盤オープンフォーラム2011(夏)
- ◆ H23年後半:  
東京以外での学術情報基盤オープンフォーラム(コンパクト版(仮称))